

消費者教育研究校報告書

愛知県立東海樟風高等学校 戸田 和佳代

1 はじめに

本校は創立 53 年を迎える全日制商業高校である。令和 3 年度までは東海商業高校として、総合ビジネス科と情報科の 2 学科が設置された学校であったが、令和 4 年度からは学校名が現行のものに変更になり、設置学科も総合情報科となった。1 年次は全員が同一カリキュラムを履修し、2 年次からは S E 系列・プログラミング系列・ファイナンス系列・マーケティング系列・デザイン系列に分かれて学習する。学校設定科目が多く、系列ごとに特色ある学習内容となっている。なお、令和 5 年度 3 年生は旧カリキュラムで学科選択をしているため、総合ビジネス科と情報科に分かれている。

本校では、5～6 割の生徒が高校卒業後に就職するため、以前より金融広報中央委員会から発行されている教材を用いたり、クレジットカード会社の方を講師にお招きしたりして金融教育を行ってきた。今回消費者教育を実施したのは、3 年生の総合ビジネス科の生徒のうち、「ビジネス経済応用」選択者約 50 名で、1 年次に「ビジネス基礎」、2 年次には「マーケティング」で企業側の視点から消費者の購買行動について学んでいるため、それとは違った視点から消費者の購買行動について考えてもらいたいと考え、今回は「エシカル消費」をテーマに取り扱うことにした。

2 ねらい

- (1) 今回の取組が、一消費者としてどのような選択をしていくのか考えるきっかけとなるとともに、今後の自身の購買行動の選択肢を広げることができるようになる。
- (2) 参加型の学習手法を取り入れ、エシカル消費を「自分事」として取り組むことができるようになる。

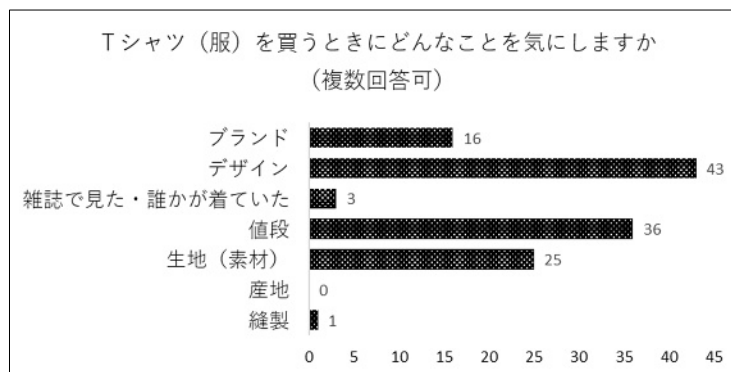
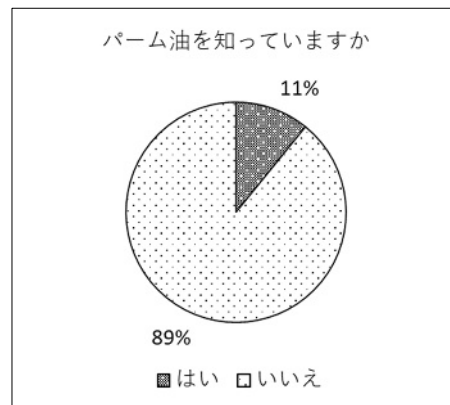
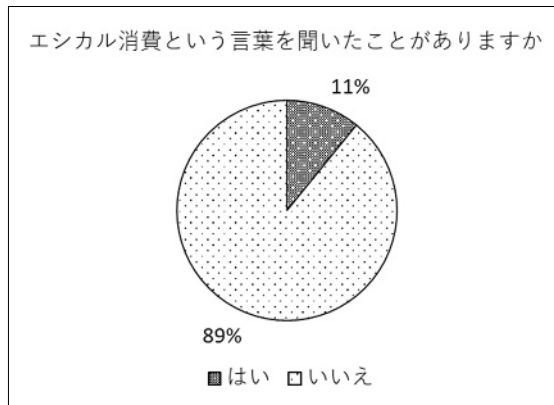
3 実践内容

(1) 授業計画

時数	内 容
1 時限目	一般社団法人消費生活総合サポートセンター中村様講義 「エシカルコンシューマーになろうー服の幸せな未来に向けてー」
2 時限目	動画「2ユーロのTシャツ」視聴、課題を考え共有する ワーク「私のTOP3」
3・4 時限目	前時に選んだTOP3について、消費者・企業・行政それぞれの立場から 解決策を考える（調べる）
5 時限目	パーム油のはなし① ワーク「パーム油が使われている商品を探せ」 ワーク「パーム油はどこからやってくる？」
6 時限目	パーム油のはなし② クイズ「写真とパーム油の関係は？」 ワーク「フォトランゲージ」

(2) 生徒の実態（事前アンケート結果）

今回の実践では、「Tシャツが届くまで」と「パーム油のはなし」の2つのテーマでエシカル消費について学んだ。それに先立ち、Google フォームを用いて生徒にアンケートを実施した。以下のとおり、エシカル消費という言葉や、パーム油についての認知度が低いということがうかがえる。



(3) Tシャツが届くまで

ア 外部講師の招聘

本実践では、愛知県県民生活課と、一般社団法人消費生活総合サポートセンターのご協力をいただき、講師の中村様より「エシカルコンシューマーになろうー服の幸せな未来に向けてー」というテーマで講義をしていただいた。

講義では、Tシャツが日本に届くまでには多くの工程を経ているということを教えていただいた。しかし、その工程のなかには、インドの少女が学校にも行かず綿花の受粉作業や収穫作業に従事している様子や、ランニングシャツ1枚で大量の農薬を撒く青年、染色工場から排出される毒々しい色の大量の水、安く作るために人と機械が詰め込まれ崩壊した縫製工場のビルなど、衝撃的な写真もたくさん見せていただいた。私たちが安価なTシャツを手にするその裏で、児童労働や低賃金労働、環境汚染など多くの問題があることを知った。また、私たちが着なくなった服の行方についても教えていただき、いかに私たちの手元に服が来る「前」と「後」について、無頓着・無意識であったかを感じることができた。



講義の様子

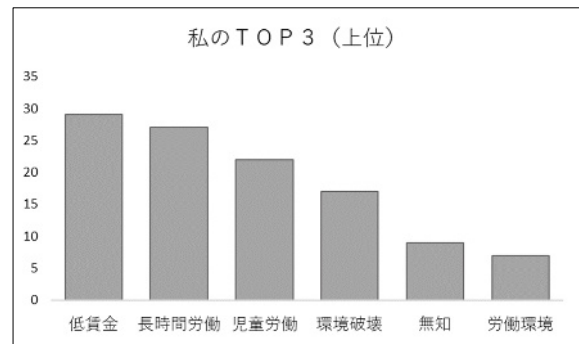
中村様は講義の最後に、「絶対にエシカル消費をしなければならないということではない。無理のない範囲で、できることを考えることが大切だ」とおっしゃった。大切だとわかってはいても、不便を強いられるようなものでは、反発したり、受け入れられなかったりすることもあるだろう。持続可能であることが大切なのだという事も学ぶことができた。

イ 参加型の手法を用いたワークの実施

今回の消費者教育では、ただ単にエシカル消費について知識を得ることを目的とするのではなく、自分たちで考え、感じ、少しでも自分事として取り組んでもらいたいと考え、基本的には参加型のワークを用いて授業を進めた。Tシャツに関する内容ではまず、中村様からご紹介いただいた「2ユーロのTシャツ」という動画を視聴し、感じたことや課題だと思ったことを付箋に書き出し、チームで共有、KJ法でグループ分けをした。そして、その中から各自が「私のTOP3」を選び、消費者・企業・行政それぞれの立場からの解決策を考えたり調べたりして、最後に「私にできることはなんだろう」ということを考えた。



付箋に書き出した課題を共有



私のTOP3で選ばれた課題

<生徒感想 (一部抜粋)>

- ・服を作る過程だけではなく、世界では様々なものを作る過程で同じようなことが起きていると考えたら、ものをより大切にしようと思いました。
- ・児童労働のせいで、最低限生きていく力を備えられないことは大問題だと思った。
- ・自分たちが着ている服がいろいろな人が様々な思いや苦勞をして作られているということを知って、もっと大切にしようと思いました。
- ・欲しい服が安かった時「うれしい」「よかった」と思っていました、今回作っている過程を見て、安いには安い理由があるとわかったので、自分のできる範囲で協力していきたいと思った。

(4) パーム油のはなし

パーム油については、開発教育協会が発行する『パーム油のはなし2ー知る・考える・やってみる！熱帯林とわたしたち』という教材を用いて、いくつかのワークを通してパーム油について学んだ。

ア パーム油が使われている商品を探せ

さまざまな商品の原材料を見て、その商品はパーム油が使われているかどうかをチームで考え、グループ分けをするワークを行った。パーム油は「植物油脂」などと表示されており、一見しただけではパーム油が使われていないということがわかった。また、



使用した教材

食品だけでなく、洗剤・化粧品などありとあらゆる身の回りのものにパーム油が使われていることに驚いた。

イ パーム油はどこからやってくる？

パーム油の原料であるアブラヤシから、パーム油を原料とした製品として私たちの手に届くまでのサプライチェーンをカードにし、チームでその順番を考えた。思った以上に多くの工程があることや、アブラヤシを育てるための農園開発のために、熱帯雨林が伐採されていることなど、私たちの生活が、私たちの目には見えないところで環境破壊や現地の人々の生活に影響を与えているということがわかった。しかし、今の私たちの生活そのままに、パーム油以外の油に変えようとするれば、もっと広大な農地が必要となる。解決とは何か？どこから手を付けて考えればよいのか？答えを出すにはあまりに難しい問題であると感じた。



サプライチェーンを考えるワーク

ウ 写真とパーム油の関係は？

アブラヤシやプランテーション、コンビニエンスストアなどの写真を見せ、「何の写真か？」「どこの写真か？」「パーム油との関係は？」といったことを考えていった。コンビニ以外の写真はマレーシアのボルネオ島（カリマンタン島）で撮影されたもので、Googleマップでそれがどこにあるのかなどを確認した。

エ フォトランゲージ

各チームに、プランテーションや森林火災、嘔吐するゾウ、銃弾が130発も撃ち込まれたオラウータンのレントゲン写真、さまざまな昆虫の写真を印刷したものを配布し、一人1枚、気になるものを手に取った。そして、それは何の写真なのか？なぜその写真を手に取ろうと思ったのか？を考えた。また、それぞれの写真にはキャプションがついており、それを読むことで写真から得られる印象がどう変わったのかといったことについて考え、その写真やキャプションをチームのメンバーに紹介した。衝撃的な写真が多く、生徒の反応が心配であったが、多くの生徒は私たちの消費生活が与える影響について受け取ることができたように感じた。最後に、これまで学んだことを受けて、自分たちにできることは何かということ考えた。



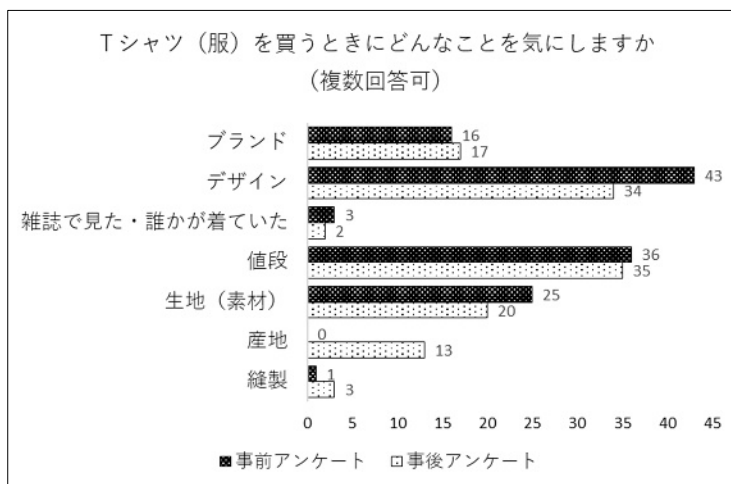
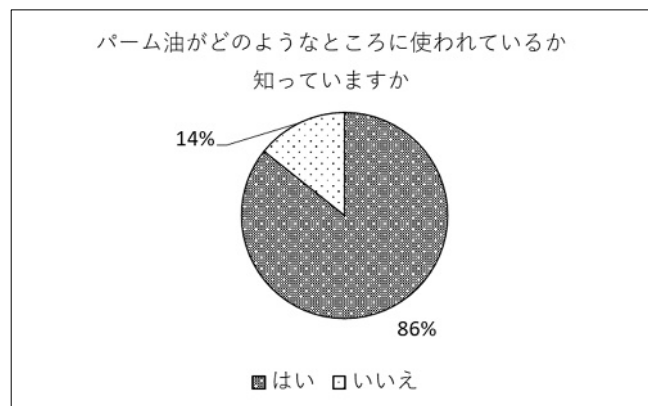
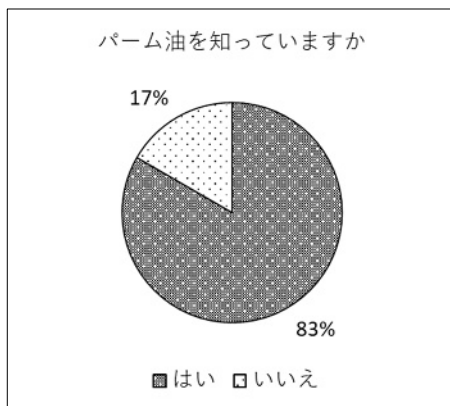
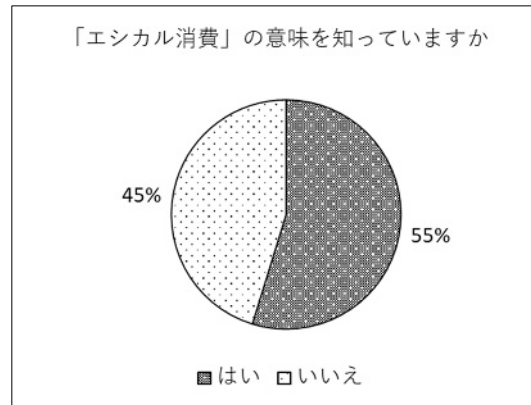
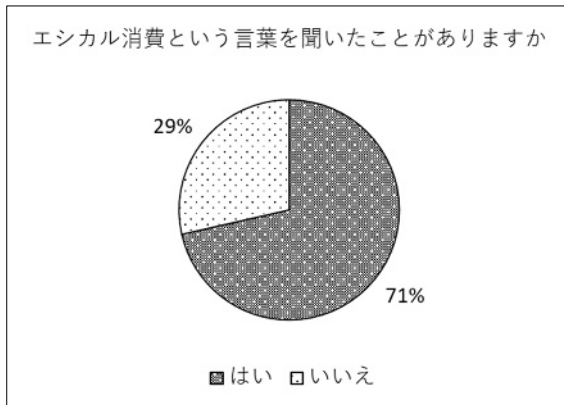
フォトランゲージの様子

<生徒感想（一部抜粋）>

- できるだけパーム油を使わないようにしたいです。と言いたいです。いろいろな商品に使われているので、使わないという選択はできません。この商品を使っているのは、裏で動物や虫たちが被害にあっていることを意識したいです。他の視点に立って、いろいろなことに感謝したいです。
- 虫は必要ないと思っていたが、熱帯雨林などには虫が必要なんだと思った。
- 正しい知識や新しい情報を常に自分で探していく必要があると思いました。まずは知るということが大切だと思いました。
- パーム油はそこまで必要なのかなと思った。食べ物も廃棄が多い世の中で、そこまで動物や気候を犠牲にする必要がない。でも、現地の人たちにとってはパーム油が唯一の収入源なので現地の人にも必死なのかなと思った。

(5) 事後アンケート

6時間の授業の後、アンケートを実施した。事後アンケートでも「エシカル消費」や「パーム油」という言葉を聞いたことがないと答えた生徒がおり、設問のしかたを反省した。しかし、全体的には「エシカル消費」や「パーム油」という言葉については認知できたことがうかがえる。また、服を購入する際に気にすることについては、「デザイン」や「値段」が多いことに変わりはないが、「産地」という選択が0から13になった。「産地が〇〇だからやめておこう」や、「産地が△△だから購入しよう」とはあまりならないかもしれないが、商品を手にとるときに産地で働いている人に少しでも思いをはせられたのなら大きな進歩になると感じた。



また、生徒たちはこれから企業で働き、稼いだお金を消費者として使用していく立場にある。そのため、アンケートの中で「企業が大切にすべきことは何か」と「消費者として世の中に貢献できることはどのようなことがあるか」についても、事前と事後に意見を聞いてみ

た。自由記述回答をこちらでグループ分けした結果（回答数の多かったもの）は以下のとおりである。

- ・企業が大切にすべきことは何か

【事前アンケート】

従業員が働きやすい環境づくり、従業員にやりがいを感じさせること など	11
お客様の声、消費者により良いものを届けること など	7
利益を出すこと、自社の強みを生かすこと、他社との差別化 など	7
コンプライアンスの徹底	7

【事後アンケート】

環境に配慮した商品づくり、利益や便利さだけを追求しない など	22
働きやすい環境づくり	7

「働きやすい環境づくり」は事前アンケートでも最も多かった回答だが、事前アンケートでは、日本の従業員・会社員の働きやすさのことを言っている生徒が多かったように感じる。しかし、事後アンケートでの働きやすさとは、現在低賃金で長時間労働させられている子どもや、劣悪な環境で従事させられている人たちが働きやすいように、という視点の変化が見られた。

また、事後アンケートでは上記の他にも「いろいろな視点に立って考える」や、「多くの人に関わりに配慮する」「正しい知識を浸透させる」などの新しい意見も出ていた。もちろん、企業は利益を出さなければ存続できず、利益追求が大切であることには変わりはないが、自社の利益ばかりを追い求めてはいけないのだということに思い至った結果なのではないかと思う。

- ・消費者として世の中に貢献できることはどのようなことがあるか

【事前アンケート】

たくさんものを買って経済を回す	17
環境にやさしい商品を選ぶ	12
リサイクル、節約、エコバッグ など購入以外の部分でのエコ活動	12

【事後アンケート】

環境にやさしい商品を選ぶ	10
正しい知識を身に付ける、知る	7
募金・寄付	7
無駄遣いをしない、リサイクル など	12

まず、事前アンケートの中で「たくさん買い物をして経済を回す」という意見が一番多かったことに驚いた。世代の違いなのか、これまでにそのようなことを習ってきたのか…経済を回すことは確かに大切だし、たくさん買うことが悪いことではないが、安いものをたくさん求めた結果が今回のTシャツやパーム油の話につながることに気づいてもらえれば幸いである。

また、事後アンケートで新しく増えた回答が「知る」ということである。ワークシートの感想などでも、「知らなかったから知れてよかった」という声が多くあった。今すぐに何かできなくても、まずは「知らないことがある」ということを知り、今まで見えていなかったことを見ようとする心が大切なのだと感じた。

4 今後の課題とまとめ

私たちは非常にモノに恵まれた生活をしていると思う。そこら中の店で、当たり前のように、安価な衣類・食品を簡単に手に入れることができる。ともすれば、「安いことがよいこと」であるかのように感じている人も多いのではないかと感じる。しかし、安く提供できるには、それなりの

理由があることに思いをはせられる人はどれくらいいるだろうか。普段、それらのモノがどこからきたのか、どのように作られたのか気にする人はどれくらいいるだろうか。かくいう私自身も、普段そのようなことを考えながら買い物をするのは少ない。SDG s が採択されて10年近く経過し、誰もがSDG s について認識するようになったが、私たちはどう変わったのか。本校でもここ数年、1年次にSDG s セミナーを実施したり、進路探究学習の中で、企業の提供する価値についてSDG s をフレームとしてとらえてみたりといった取組をしているが、果たしてどの程度の効果があるのだろうか。効果が図れるものでもないため難しいが、SDG s について学んでも、どこか他人事になっていないだろうかという思いがある。

今後の課題としては、私たちの生活の中にある「消費行動の前後のつながり」について少しでも自分事としてとらえ、自分に何ができるかを考え、行動に表していくことではないかと考える。大きく変える必要はないし、急に変える必要もないが、継続的に取り組み、さまざまな角度から知ることによって知識をつなげ、よりよい選択ができるようにしていくことが消費者教育として必要なことの一つであると感じた。今回エシカル消費について学び強く認識したのは、世界で起こっていることと私たちの生活は密接につながっているということである。Tシャツやパーム油といった身近な題材を取り扱い、その裏側を具体的に知ることによって、少しでも消費行動に変化が生まれてくれることを期待したい。